

令和3年度（第33回）全国高等学校情報処理競技大会実施報告

専門委員 森田 秀之

全国商業高等学校長協会・公益財団法人全国商業高等学校協会主催、文部科学省後援、令和3年度（第33回）全国高等学校情報処理競技大会について実施報告いたします。

1 はじめに

令和3年7月25日（日）午前10時より、広島市立大学を会場に開催されました。昨年は新型コロナウイルス感染予防のため競技大会を実施することができませんでしたが、今年度は競技大会の各都道府県開催も制定し、様々な感染対策を事前に施し、多くの方々のご支援とご協力によって、大会の運営が円滑、無事に行うことができました。ここであらためて感謝いたします。

本大会に先立ち都道府県大会（6月）が実施され、全国47都道府県から、予選を勝ち抜いた団体の部45校135名（辞退校2校）、個人の部67校87名（辞退校1校）、合計222名（当日辞退2名）の選手が、情報処理に関する知識や実践的な活用能力、論理的思考能力を競う問題で、日本一を目指した熱い戦いを繰り広げました。なお、今年度から前年度優勝校の優先出場は取りやめ、団体の部の競技者数も4名から3名へと変更になり、表彰規定についても整理されました。

情報処理競技大会は、平成元年より情報処理教育の振興を図る事業の一環として実施しております。また、平成22年度には、競技構成を①関連用語 ②データベース ③表計算 ④アルゴリズムの4つから出題する現在のかたちに変更しました。これにより問題構成や配点の偏りが解消され、競技内容を充実させることができました。今後とも適切な変更を行い、情報処理教育の振興と充実のために貢献していきます。



2 大会次第

本年度の競技大会は、次のように実施されました。

開会式（10:00）

司会者 栃木県立宇都宮商業高等学校 田崎 哲也

1. 開会のことば

情報処理研究部部長

甲府市立甲府商業高等学校長 武藤 秀樹

2. 大会会長あいさつ

全商協会理事長

東京都立芝商業高等学校長 大林 誠

3. 来賓あいさつ

文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付

産業教育振興室 教科調査官 田中 圭

4. 来賓紹介

全商協会副理事長

大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校長 塩見 暢朗

5. 令和元年度 優勝校紹介

情報処理研究部副部長

東京都立第一商業高等学校長 平野 篤士

6. 競技実施上の諸注意

競技委員長

茨城県立水戸商業高等学校 武藤 靖晴

競技

第Ⅰ部 関連用語とデータベース 10:40～11:20

第Ⅱ部 表計算とアルゴリズム 11:40～12:20

競技終了後解散

新型コロナウイルス感染予防のため、例年では入場時に受付を設けていましたが、できるだけ接触を避けるために受付を設けず、受付で手渡していた封筒は引率者の座席に置くことで対応しました。開会式会場への入場時に、消毒用アルコールスプレーを一人一人に噴射して手指消毒をし、サーモグラフィーカメラによる非接触体温チェックを行いました。引率者、競技選手、補欠者の座席は事前に指定し、密を避けるため一つおきに着席してもらい、会場内では私語は慎むよう案内しました。

競技会場でも密を避けるため、例年では3名がけの机に2名の選手を充てていましたが今年度は選手1名を充て、座席間隔を十分にとりました。また、除菌ウェットティッシュを選手一人一人に競技会場で配付しました。

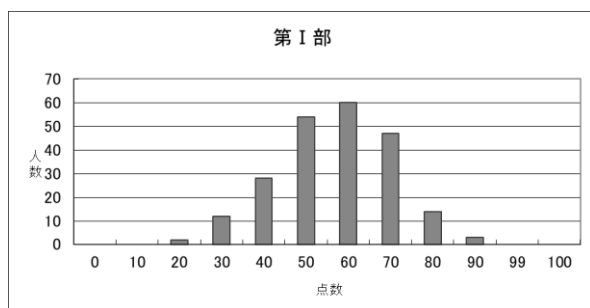
競技終了後は、昼食休憩、閉会式は行わずそのまま解散としました。

3 競技成績

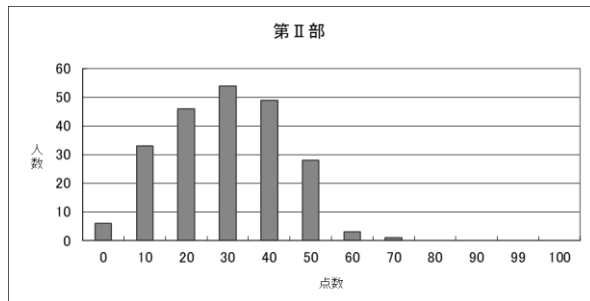
採点・審査の結果、団体の部は三重県立宇治山田商業高等学校が優勝（2回目）しました。準優勝は愛知県立豊橋商業高等学校、第3位は新潟県立新潟商業高等学校でした。宇治山田商業高等学校は、準優勝の豊橋商業高等学校に30点以上の差をつけての優勝でした。

個人の部では、鹿児島県の実業学校（現鹿児島県立実業学校）の成松悠慈さんが日本一の栄冠を手に入れました。また、三重県立宇治山田商業高等学校の天竺隆景さんが準優勝、新潟県立新潟商業高等学校の神原健太さんが第3位の成績を収めました。優勝から第10位までの得点差は20点で、接戦となりました。

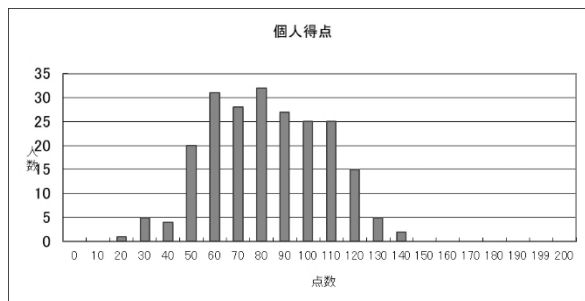
<第I部 得点分布>



<第II部 得点分布>



<個人得点の分布>



4 大会参加資格

各都道府県代表1校とし、1校あたり3名、補欠を1名とする。ただし、

- ・全商協会の会員校在籍生徒であること。
- ・各都道府県の代表校以外の会員校から、各都道府県2名を限度として、個人参加を認める。

5 大会実施要項

(1) 出題範囲

全商情報処理検定試験1級程度の出題範囲とし、出題は次の2部門に分ける。

第I部 関連用語とデータベース

関連知識、データベースに関するもの

第II部 表計算とアルゴリズム

表計算に関するもの、流れ図の完成

(2) 競技方法

筆記試験による個人の得点を基準とし、団体賞（3名の合計得点）及び個人賞を決定する。

(3) 競技時間

各部門40分、2部門あわせて80分とする。

(4) 審査

審査委員会を設けて審査する。

(5) 表彰

団体優勝校には、文部科学大臣賞・杯、全商杯・優勝旗、賞状と賞品を、成績優秀校に、賞状と賞品を授与する。個人優勝には、文部科学大臣賞・杯、賞状と賞品を、成績優秀者に、賞状と賞品を授与する。また、当日参加した全員に参加記念品を贈呈する。

6 参加選手の内訳

総数	1年生	2年生	3年生
220名	0名	59名	161名

(当日辞退2名)

7 平均得点と最高・最低得点の推移

		第33回	第31回	第30回	第29回
第I部 関連用語と データベース	平均点	52.5	54.4	43.7	49.7
	最高点	87	91	90	90
	最低点	20	12	12	12
第II部 表計算と アルゴリズム	平均点	25.5	34.4	21.1	25.8
	最高点	61	86	69	61
	最低点	0	0	0	4

(第32回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止)